

平成30年度(2018年度)

管理事業名	水路事業				総合計画の体系	第5章 環境を守り育てるまちづくり 第2節 自然と共生するまちづくり
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 08	土木費	(項) 03	水路費	(目) 02 水路維持費
部局名	下水道部	予算執行所属	水循環室			
予算大事業名	水路維持管理事業 上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)土木費(項)水路費(目)水路総務費 水路総務事業 (款)土木費(項)水路費(目)水路総務費 河川親水環境事業 (款)土木費(項)水路費(目)水路新設改良費 水路新設改良事業					
事業の目的と概要 水路維持管理事業・水路総務事業 安全で快適な都市環境の改築のため、水路、排水管等の維持管理を行います。 水路新設改良事業 水路、排水管等の適正な機能面、安全面の確保及び利用面の向上等を目的に施設の改良を行います。 河川親水環境事業 河川管理者である大阪府との協働により、糸田川の河川清掃を行い、環境の美化・保身に努めます。						

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
水路等の清掃延長	m	10,059.00	10,484.00	10,311.00	水路等を維持管理のために清掃した延長
水路等の調査延長	m	425.00	813.20	890.90	水路等を目視調査した延長
水路等の改良延長	m	1.00	105.70	6.50	水路等の機能面・安全面等を改良した延長
排水管の改良延長	m	273.35	210.65	202.90	排水管の布設替えや更生をした延長
成果の説明	水路等の清掃を行うことにより、快適な生活環境の確保や、市民の安心・安全に寄与しました。 現地調査の結果に基づき、水路、排水管等の不良箇所の改築等を行うため、年度毎の施工延長にばらつきがあります。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書 (単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	5,080	5,324	5,512	188
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	751	294	5,722	5,428
経常収入 小計(a)	5,831	5,618	11,234	5,616
給与関係費	63,452	64,513	65,937	1,424
物件費	49,087	40,191	43,466	3,275
維持補修費	39,426	45,846	42,005	△3,840
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	4,462	5,353	16,115	10,762
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	453	453	453	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	5,376	5,451	5,682	230
退職手当引当金繰入額	4,344	4,058	4,896	839
支払利息	-	-	-	-
その他	-	1,623,376	-	△1,623,376
経常費用 小計(b)	166,599	1,789,240	178,553	△1,610,686
経常収支差額(c)=(a)-(b)	△160,768	△1,783,622	△167,320	1,616,302
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	7,071	-	△7,071
特別収入 小計(d)	-	7,071	-	△7,071
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別費用 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	7,071	-	△7,071
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△160,768	△1,776,551	△167,320	1,609,231
一般財源充当額	162,049	174,241	173,206	△1,036
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	1,281	△1,602,309	5,886	1,608,195

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	施設管理委託料、システム保守委託料、その他委託料 6,288千円 水路改良に伴う設計委託料 10,085千円
維持補修費	工事請負費 42,005千円
負担金・補助金・交付金等	淀川右岸水防事務組合分担金 884千円 淀川右岸治水促進期成同盟負担金 84千円 大阪府河川協会会費 70千円 安威川ダムに係る水特法12条負担金 2,108千円 千里山排水管路改築工事に伴う移設補償金 12,969千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	5,377	5,618	5,836	218
行政サービス活動支出	167,426	167,138	179,041	11,903
行政サービス活動収支差額	△162,049	△161,520	△173,206	△11,685
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	12,721	-	△12,721
投資活動収支差額	-	△12,721	-	12,721
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△162,049	△174,241	△173,206	1,036
一般財源充当額	162,049	174,241	173,206	△1,036
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
水路1mあたりにかかるコスト	平成28年度	10,758.35 m	15,485.55 円	経常費用 小計(b)のうち、平成29年度のその他で、固定資産の重複登録の見直しによる経常費用1,623,376千円を計上しているため、それを控除して、分析しています。単位あたりコストは経常費用全体が増となり、実績延長は減少している為、コスト増となっています。
	平成29年度	11,613.55 m	14,281.94 円	
	平成30年度	11,411.30 m	15,647.03 円	
	平成28年度		円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	5,451	5,682	230
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	5,451	5,682	230
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	605,669	605,216	△453	固定負債	59,001	57,830	△1,171
土地	596,163	596,163	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	9,505	9,052	△453	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	59,001	57,830	△1,171
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	34,547	34,547	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	1,199,807	1,180,174	△19,633	負債の部合計	64,452	63,512	△940
土地	1,199,807	1,180,174	△19,633	純資産	1,775,570	1,756,425	△19,145
建物・工作物	0	0	-	負債及び純資産の部合計	1,840,023	1,819,938	△20,085
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	1,840,023	1,819,938	△20,085				

Ⅲ 財務構造分析

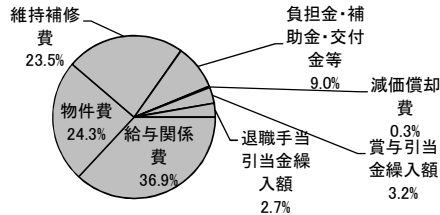
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均 8.7人	月平均 人	年間従事延日数 日	実人数 人	
給与関係費等	76,515千円	千円	千円	千円	76,515
内、時間外勤務手当	3,333千円				

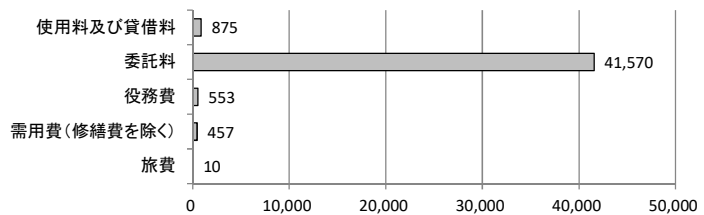
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
インフラ資産 土地	道路室へ所管換えのため(南吹田1丁目24-3他3筆)

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	水路等
取得年月日	
建物・工作物の取得価額	59,450 千円
建物・工作物の減価償却累計額	50,398 千円
利用料金収入	5,490 千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			差 B-A
		平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	
施設維持補修費比率		66.3	77.1	70.7	△ 6.4
施設老朽化比率		83.3	84.0	84.8	0.8
受益者負担比率		3.0	0.3	3.1	2.8
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		96.8	96.9	96.7	△ 0.2
経常費用対公共資産比率		280.2	3009.7	300.3	△ 2709.4

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものにつきましては、給与関係費65,937千円(36.9%)、維持補修費42,005千円(23.5%)、物件費43,466千円(24.3%)となっています。物件費の内訳としては、施設管理委託料、システム保守委託料、その他委託料(水路等調査業務他)として6,288千円、水路改良に伴う設計委託料として10,085千円、糸田川河川清掃として648千円ほかです。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

水路等の機能を確保するため必要な清掃や調査等を行っています。これらの維持管理は、市民の安全と快適な都市環境の確保のためには必要な事業であると考えています。
また、水路、排水管等の改良については、不良の箇所数や状況等により、多額の費用となることがありますが、優先順位を考慮し、事業費の平準化を図っています。